

*** 東京天文台 100周年記念誌資料 2-1-9 (彗星搜索望遠鏡など 13枚)**

アーカイブ室新聞第349号(2010年6月11日)に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料—その2—」という記事を書き、その中に「今回の資料は写真類が多く、航空写真も大量にあった。筆者としては彗星搜索鏡の写真(写真1)があったことを喜んでいる。」と書いてあり、彗星搜索望遠鏡の写真も載せてあるが、この写真は重複するが、この東京天文台100周年記念誌資料の2個目の段ボール箱の一番上には紙箱があり、その中には雑多な写真がたくさんあった。リストは次のようであった。

1) 紙箱入り写真

1. 天文台記録写真(雑):岡山関係:25枚、野辺山太陽電波関係(起工式1968年5月6日の日付あり):10枚、1968年5月6日とある万歳をしている写真、三重県水産試験場日食時の港の写真:8枚
2. 46年10月2日の日付がある東京天文台一般公開の写真:29枚(卯酉儀の写真あり)
3. 岡山188cm望遠鏡の基礎工事写真:42枚+106枚:これらには裏面にメモ書きがある
4. 東京天文台本館竣工披露写真(昭和41年7月30日のようだ):白黒91枚、カラー7枚
5. 岡山天体物理観測所蒸着作業(中桐が写っている):22枚
6. 太陽クーデドーム写真1枚
7. ブローニ版ネガ7枚(古い26吋ドームなどが写っている)
8. ブローニ版ネガ8枚(古い時代の写真の複写?)
9. ブローニ版ネガ13枚、彗星搜索鏡など貴重な写真:スキャン済(中桐)
10. ブローニ版ネガ8枚旧本館など貴重な写真
11. 封筒入りネガ(ブローニ版)33枚 複写らしいが貴重、花の写真もある。
12. 名刺版写真23枚 古い貴重な写真
13. 保時室の写真1枚
14. 水島の工場の写真1枚
15. 木曾観測所候補地調査らしい、松本ナンバーの車が写っている:9枚
16. 岡山36インチ立派な装丁がしてある写真1枚
17. 岡山74インチ立派な装丁がしてある写真1枚
18. 岡山74インチドーム写真立派な装丁1枚 上記3枚はカラーの痛みがひどい

今回の記事は、9.ブローニ版ネガ13枚、彗星搜索鏡など貴重な写真:スキャン済(中桐)の全容の報告である。写真は13枚あり、そのうちの2枚が彗星搜索望遠鏡である。

写真1、2が彗星捜索望遠鏡であり、写真1は卯酉儀室と呼ばれたドームに設置されており、写真2はグランド西の comet シーカー室と呼ばれた建物に設置された彗星捜索望遠鏡である。この望遠鏡は屈折望遠鏡であるがF比が小さく、望遠鏡をどこに向けても同じ位置に座った姿勢で観測できる特徴的な望遠鏡であった。

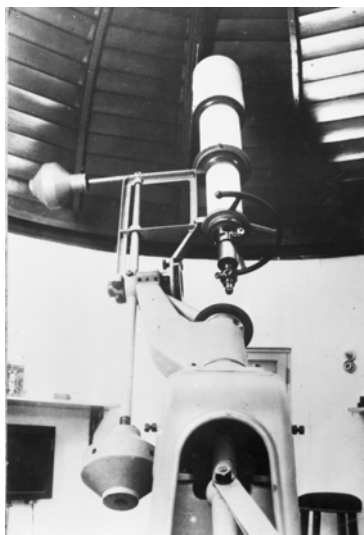


写真1

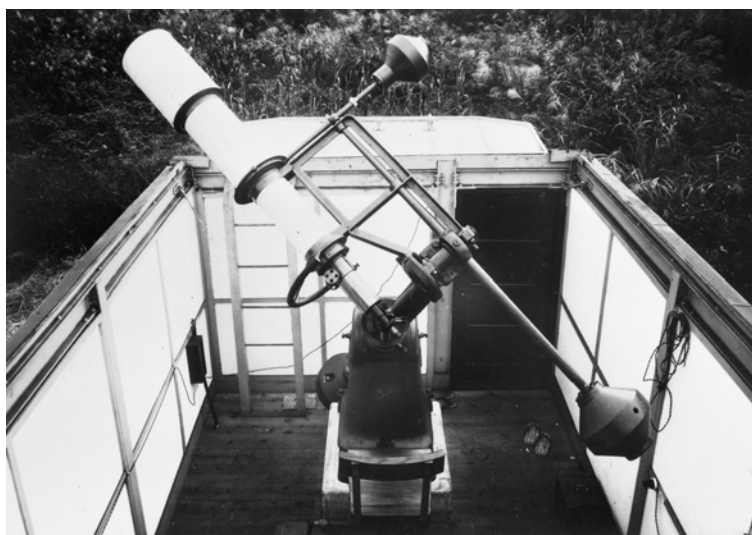


写真2

写真3は、大正末期に建設された三鷹国際報時所60m鉄塔から撮影されたと思われる昭和初期の東京天文台のほぼ全景であり、65cm望遠鏡ドーム、旧本館などが見える。



写真3

写真4は、旧本館の玄関屋上のバルコニーから撮影されたと思える東京天文台風景で左に65cm望遠鏡ドーム、その右手に旧図書館、その右奥にレプソルド子午儀室、ゴーチェ子午環室、右手には旧本館の屋根が見える。背景には三鷹国際報時所の60m鉄塔を見ることができる。

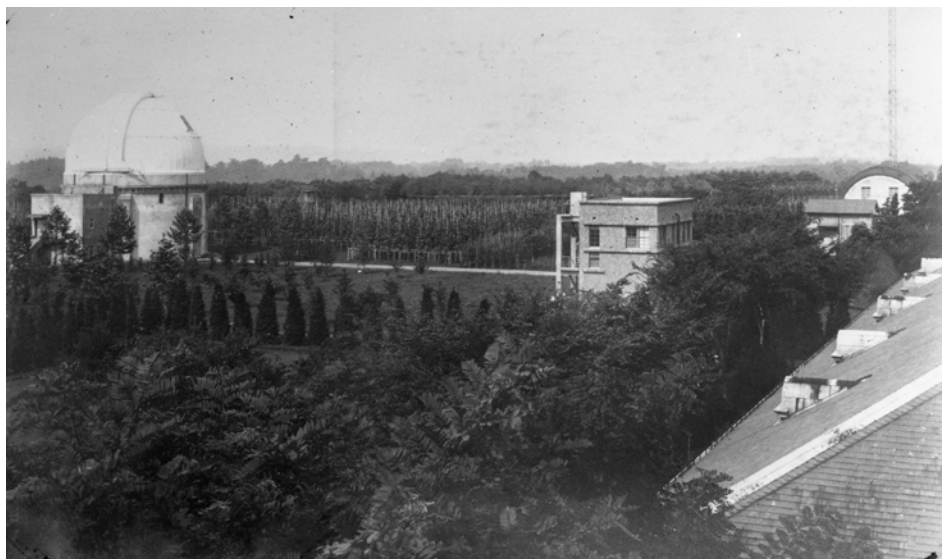


写真4

写真5は、当時、日本の中央標準時を保持していた精度が0.01秒/日のリーフラー時計、写真6が太陽塔望遠鏡のシーロスタットである。

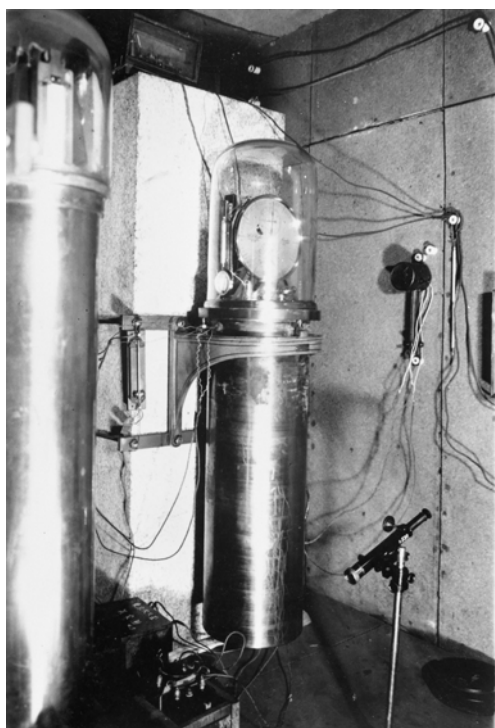


写真5

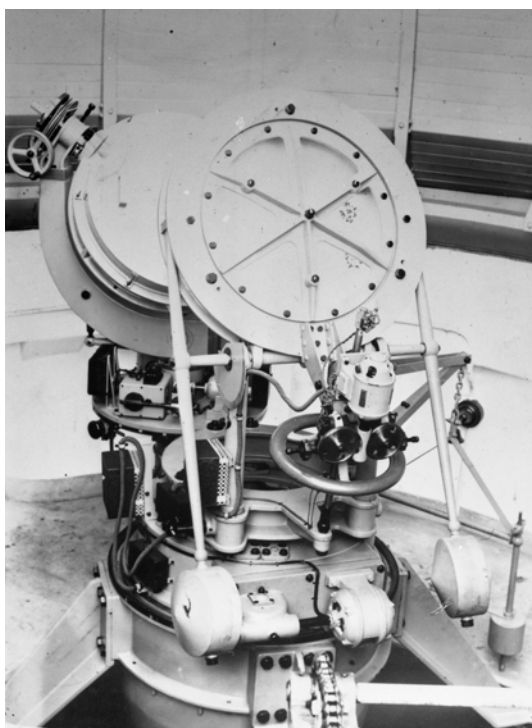


写真6

写真7は、太陽分光写真儀室、写真8は太陽分光写真儀室に太陽光を導入するサイドロスタットと第2代東京天文台長平山信である。



写真7



写真8

写真9、10は20cm屈折赤道義望遠鏡のドームである。

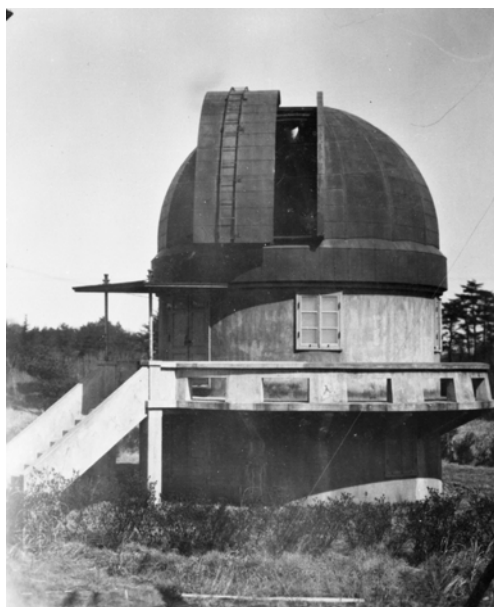


写真9



写真10

写真11、12は、同じ写真なので、写真12のみを掲載する。東京天文台記念日であった10月29日に撮影されたものである。撮影された年の記載がないが、この写真には筆者が写っており、当時岡山天体物理観測所勤務であった。この写真には岡山天体物理観測所の守衛であった田口高氏も写っている。2人で東京に出張した記憶がある。筆者1961年3月～1966年3月が岡山勤務であったから、その間の写真であり、他に写っている人を見ると1965年に東京天文台に入った人が写っていることから、この写真の撮影日は1965年10月29日と推定される。この頃、東京天文台では25年永年勤続表彰が東京天文台記念日に行われており、表彰された方々は、左から竹田吉雄、河野節夫、虎尾正久、千場達、下保茂、佐藤友三、藤井繁、広瀬秀雄、斉藤国治、工藤房之助の諸氏であった。当時の台長は広瀬秀雄氏であった。



写真 12

写真 13 は、かなり古い時代のものである。虎尾正久氏が最前列左から 3 人目に学生服で写っている。筆者に同定できる人は他に前から 2 列目右から 4 人目が広瀬秀雄氏、5 人目の橋元昌矣氏くらいである。女の人には和服の方もいる。



写真 13

この 13 枚の写真は、もはや歴史的な写真と言える。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp